

## 「こどもの日」一考

校長 大谷 慎也

「雀らも 海かけて飛べ 吹き流し」(石田 波郷『風切』) 若葉に清々しい風の渡る季節となりました。過日実施いたしました全校授業参観や保護者会、学級懇談会、PTA 全体委員会、部活動保護者会におきましては、多くの方々に御来校を賜り、心より感謝申し上げます。ありがとうございます。

さて、5月5日は「こどもの日」。「国民の祝日に関する法律」(1948年公布・施行)で定められた祝日です。第1条で「国民の祝日」(祝日)とは、「自由と平和を求めてやまない日本国民が、美しい風習を育てつつ、よりよき社会、より豊かな生活を築きあげるために、国民こぞって祝い、感謝し、又は記念する日である。」と定義しています。そして、第2条で「こどもの日」の趣旨として、「こどもの人格を重んじ、こどもの幸福をはかるとともに、母に感謝する。」と定めています。また、5月5日は「端午の節句」でもあります。「端」が「始まり」を意味し、元々「端午」は月の始めの「午」の日を指していたようです。旧暦の「午」の月の「午」の日を節句として祝っていたものが、後に「午」が「五」に通じることから、「五」が重なる5月5日が「端午の節句」の日になったとも言われています。「端午」の風習は、ちまきや柏餅を食べたり、菖蒲(しょうぶ)や蓬(よもぎ)の湯につかったり、こいのぼりを立てたりするなど、様々にありますが、紀元前3世紀の中国の楚(そ)の国で始まったとされています。こどもの健やかな成長を祝い、健康を祈るというような風習は、武士の時代である鎌倉時代に「菖蒲」が「尚武」と同音であることや「菖蒲」の葉の形が剣を連想させることなどから、まず男子について生まれたようです。そうして、その後の時代や世相を鑑み、今日の「こどもの日」の制定に至ったと考えられます。

こどもの成長は、成人するまで著しいものがあります。「抱く子より 大きなバッグ こどもの日」(志野 蒔子『狩』)⇒「父よりも 先に釣れたる こどもの日」(辻 雅子『ぐろっけ』)⇒「自転車に 上手に乗れて こどもの日」(樋野 恵美子『築港』)⇒「こどもの日 親子げんくわ(か)に 始まりし」(三瀬 教世『ホトトギス』)⇒「中学生 らしくなりぬ(い)て こどもの日」(成宮 紫水『ホトトギス』) このように、引用した俳句にあるように乳児から中学生になるまでも、大きな成長を遂げます。こどもが健やかに成長していき、幸せであることは、同時に御家族は勿論、御近所の方々、教職員にとりまして至極幸せであります。

しかしながら、近年、グローバル化や高度情報化、核家族化や少子高齢化の進行等、社会が急速に変化し、それに伴い子どもたちを取り巻く環境も大きく変化しています。このような中、規範意識の低下やインターネットによる交友関係のもつれ等の問題が複雑化・広域化し、学校だけでは対応しきれない事案も起きています。これらの課題を解決するには、学校・家庭・地域・行政の連携・協力が不可欠であります。児童・生徒の携帯電話の所持率に関しては、毎年4月実施の「全国学力・学習状況調査」で、さいたま市の中学校3年生が全国を約10%上回り、4人に3人が所持しているという過去の結果もあります。卒業までにさらに所持率が上がると推測できます。平素の授業では、情報モラルやコンピュータなどの情報機器の基本的な技術について学習します。また、本市では、「携帯・インターネット安全教室」を年間計画に位置付けて実施しています。本教室は、携帯電話の利便性や危険性、様々なインターネットトラブル等の回避方法を知り、正しいマナーを身に付け、今日的な課題であるサイバー犯罪に巻き込まれることがないようにすることなどを目的とします。御家庭におかれましては、進学、進級という新しい生活が始まったことを機会に、携帯電話の所持やインターネットの利用についてお子様と話し合うとともに、使用状況について御確認をお願い申し上げます。

ゴールデンウィークが明けますと、授業や部活動等、教育活動が本格化します。校内外での生徒同士の人間関係づくりも活性化します。一人ひとりが元気に登校し、充実感や満足感をもって下校できるように教職員一丸となって取り組みますので、保護者・地域の皆様におかれましては、今後とも本校の教育活動に御理解と御協力を賜りますようお願い申し上げます。